

県立多治見病院 緩和ケアチーム通信

発行：県立多治見病院緩和ケアチーム 2019年11月号 vol.102
文責：桜井 由美子・大蔵 真子

がん化学療法認定看護師の桜井です。

10月13日、神戸大学教授 木澤義之先生をお招きして市民公開講座が行われました。『人生会議』してみませんか、というテーマでした。そこで感じたことをお伝えします。



平成29年度厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業で、木澤先生が編集されている用紙に沿って、自分が万が一の時に備え、「大切にしていること」「どんな医療を望むのか」などを考えていきました。用紙に記入するだけではなく、それを大切な人と共有することが、もしもの時にその大切な人が重要な決断をしなくてはいけなくなった時に重要な手助けとなる、とのことでした。

もしもの時に大切にしたいと思っていること…、欲張りなのかあれもこれも出てきます家族との時間を大切にしたい、自分のしたいこと、やり残したことは自分の力でやりとげておきたい、苦痛は嫌だ、家にいたいけど負担もかけたくない等々…

「生き続けることは大変かもしれない」と感じる状態になったらどのように過ごしたいか？の質問では、どんどん気持ちが重くなっていきました。実際に闘病されている患者さんとACP(アドバンスケアプランニング)を考えていく際には、このような気持ちとは比較できない程の辛い気持ちに配慮していきたいと今回の市民公開講座で感じました。

こんにちは、ソーシャルワーカーの大蔵です。この4月からがん相談支援センターに移動となり、がん診療連携拠点病院の窓口としてがん患者さん家族、他機関からの様々な相談を受けています。

先月、ひょんなことからW杯ラグビー日本対サモア戦を観戦する機会を頂きました。生まれて初めて観るラグビーに、連携とチームワークの大切さをしみじみと感じてきました。時間を有効に使いこまめに選手同士でコミュニケーションを取り、プレーに生かすのですね。患者さんや家族の思いを繋げていく事が求められるソーシャルワーカーとして、本当に実行出来ているのかしら？チームワークって何だろう??と感じてしまう日々反省と振り返り、勿論、熱い戦いにパワーを貰って帰ってきました。

この感動を業務にも活かせればと思っております。



*質問、ご意見などございましたら、kanwa@tajimi-hospital までメールでご連絡ください。